

## 第2回 元町周辺まちづくり研究会 議事要旨

1 日 時 令和6年12月24日(火) 13時30分～14時40分

2 場 所 兵庫県公館3階 第2会議室

3 出席者

兵庫県	理事	稲木 宏光
	総務部長	有田 一成
	まちづくり部長	松浦 純
	元町プロジェクト室長	菅 雄二
神戸市	理事 兼 都市局都心三宮再整備 本部長	中原 信
	企画調整局長	辻 英之
	建設局長	小松 恵一

4 意見交換

※ 開会あいさつ及び資料説明については省略するとともに、発言内容は一部要約しています。

(神戸市) 庁舎等の具体的な必要面積は検討中か。

(兵庫県) 新庁舎の規模については、3号館の活用を前提とし、県民会館機能も含め、平時だけでなく災害時の受援スペースも考慮し、必要面積が足りるように検討していく。

(神戸市) 庁舎整備に有利な財源の活用とはどのようなことを想定しているのか。

(兵庫県) 耐震性不足が判明した県民会館について、今後も必要な機能を整理した上となるが、新庁舎と合築すれば、集約化・複合化事業債を活用できるため、選択肢として検討している。

(神戸市) 新庁舎の整備方針は示されたが、県民会館については何も決まっていないのか。

(兵庫県) 県民会館については、9月に耐震性不足が判明し、使用禁止としたばかりで、今後必要な機能や合築も含めた整備手法などの検討をこれからスタートする。

(神戸市) 県民会館に入居していた団体は一旦移転されているが、今後の見通しは。

(兵庫県) 県の関係団体については、本県の財政状況等を踏まえ、集約化は見直す方向である。一方で元々県民会館に入居していた県関係団体以外の団体は一旦移転しているが、将来的には各団体の希望に応じて生田庁舎などのスペースを貸し付けする方向で検討したい。

- (神戸市) 3号館を改修するという事は、新庁舎整備においても既存の3号館ありきで考えていくということか。
- (兵庫県) 新庁舎が完成するまでの10年程度は、3号館等の既存庁舎に半分程度の部局を移転させ、残りの部局は民間オフィスを借り上げて移転する想定。また、新庁舎の規模については、改めて必要面積を整理し、3号館等の既存施設の活用可能面積を差し引いた規模で整備するイメージでいる。
- (兵庫県) JR元町駅西口周辺のバリアフリー化の検討にあたっては、まずは、県庁敷地の活用方針を具体化させていきたい。新庁舎の整備方針を前提に、議論を進めていきたい。
- (兵庫県) 元町周辺の回遊性向上については、「県庁舎のあり方等に関する検討会」の有識者から、ウォークアブルなまちづくりが必要との意見をいただいております、そうした視点を取り入れて検討していく。
- (兵庫県) 敷地の活用方針については、神戸空港の国際化等の情勢変化にもよるが、現時点ではホテル、オフィスのニーズは当該地域ではないと考えている。一方、都市全体の魅力向上のためには、何か核となる施設を誘致できないか、民間へのサウンディング調査等も行いながら、模索していきたい。
- (神戸市) 市では、都市緑化や森林再生の推進に向けた議論をしているが、中央区は特に都市緑被率が低いことから、直近では「磯上公園ヒーリングガーデン」を整備しており好評を得ている。県庁敷地の活用候補として、シンボリックな緑地等も検討してもらいたい。